スタッフベストや帽子

国体〝レガシー〟再利用を

福井の女性ら　地域活用プロジェクト

第1弾　日之出公民館に

国体の〝レガシー〟、活用しませんか―。福井国体・全国障害者スポーツ大会でスタッフやボランティアに支給されたベストや帽子を、地域で再利用してもらうプロジェクトを、福井市の女性が発起人となって展開している。25日に同市日之出公民館にベスト30着を贈呈、地域活動のユニホームなどとして今後使われる。

（坂下亨、牧野将寛）

前田館長（左）に国体・障スポのベストを手渡す乾さん＝25日、福井市日之出公民館

女性は公務員の乾陽子さん（47）。「心を込めて作り上げた国体関連製品を、大会後も大事に使ってあげたいと思った」ときっかけを話す。職場で以前、女性用の事務服が廃止されたときのことにも触れ、「もったいないと思いながら何も行動をしなかったのが心残りだった」と語る。

県大会推進課によると、国体・障スポで県分だけで1万1千着以上のベストが職員やボランティアに配布された。乾さんは、大会終了後に不要になる人も多いと考え、希望する団体に提供する仕組みを考案した。

フェイスブックに特設ページを立ち上げるなどして提供と再利用を呼び掛け、これまでに測量コンサルタント業のサンワコン（福井市）や個人のボランティア、県、市職員らから提供を受けた。11月3、4日に重要文化財の旧木下家住宅（勝山市）で開かれた修理完成記念公開イベントでは、ボランティアとして参加した乾さんが、提供されたベストを着用した。

日之出公民館への贈呈は、同地区担当の市職員、井上佳音里さん（38）がプロジェクトを知り、同公民館に持ち掛けマッチングが初成立した。ベストは地区の催しなどでボランティアスタッフ用に活用される。

贈呈式で、乾さんが前田誠一郎館長にベストの入った段ボールを手渡した。前田館長は「国体でのボランティア精神、おもてなしの心を忘れず、いろいろな行事で活用していく」とお礼を述べた。

乾さんは「登下校の見守りボランティアに子どもたちからお礼の気持ちとして手渡してもらったり、スポーツ大会でスタッフに着用してもらったり、災害ボランティア用に備蓄しておいたりと、使い道はたくさんあると思うので、ぜひ声を掛けてほしい」と話している。

同プロジェクトは再利用の希望団体や、回収の協力施設、店舗なども募っている。問い合わせはフェイスブックの特設ページ「ベスト・リユースPJ」へ。